

(仮称)

自然ふれあいの森

ニューズレター 第05号

平成15年3月25日発行 発行:「(仮称)自然ふれあいの森」管理運営準備委員会

管理運営準備委員会報告

第11回/平成15年1月25日(土) ワークショップ
第12回/平成15年2月22日(土) ワークショップ
第13回/平成15年3月22日(土) 合同消防訓練

年が明け、1月と2月に行われた2回の管理運営準備委員会では、主として4月に開催予定の今年度の活動を締めくくる「総まとめイベント」の企画内容に対する話し合いと今後



の委員会の運営方法に対する話し合いが行われました。

「イベント企画部会」のメンバーが事前に話し合って決めたイベントプログラム案に対して各委員からは様々な意見が出されました。これらの意見は、イベントの開催主旨に対するものから具体的なプログラムの詳細に対するものまで多岐に及ぶものでした。こうした活発な会議の様子は、委員全員がこのイベントを人任せにするのではなく、「自分たちのイベント」だという意識を強く持っていることを感じさせるものでした。2回にわたる委員会で出された意見を受けて、後日、「イベント企画部会」が再度開かれプログラムの細かい内容が決定されていきました。また、イベント企画とともに話し合

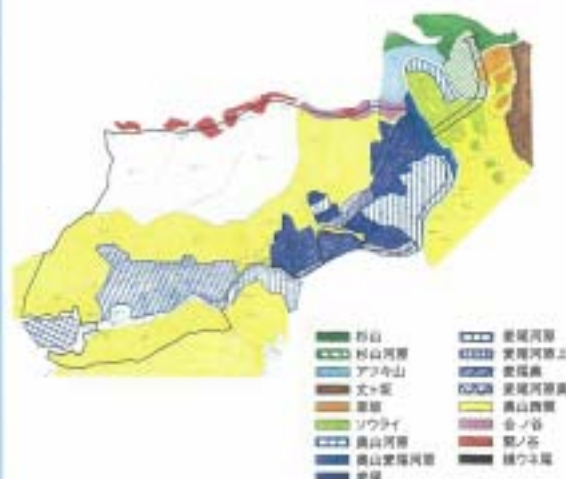


われた次年度以降の委員会の運営方法については、事務局からこれまでの「全体会議」のみの形式から、各委員の興味や得意分野に応じて構成される「専門部会」を付加させた「全体会議+専門部会」形式での運営が提案されました。この議題についても各委員から活発な意見が出され、話し合った結果、「専門部会」の内容については今後議論が必要なものの、大枠ではこの方向性で次年度の委員会を運営することが決定されました。

里山再生への掛け橋 堺市建設局 公園緑地部 公園整備課 渡野 雅之

(仮称)自然ふれあいの森への入り口として、法道寺川に2つの橋を架けました。この2つの橋は、昔親しまれてきた地域の地名を大切に、後世に残したいという思いから、堺公園墓地外周道路から1つ目の橋を「籠が坂橋」、2つ目の橋を「変尾橋」と命名しました。大阪府和泉郡大島郡畑村の明治十九年地押切図(法務局備付)では、1つ目の橋を渡って2つ目の橋にはさまれたこの地域は、字名を「籠が坂」といい、小字名には車坂、丈ヶ坂、ソウライなどがあります。2つ目の橋を渡ると、ここは字名を「変尾」といい、変尾、変尾河原、変尾河原上、変尾奥、変尾河原奥の小字名が見られます。また、畑村とあわせて富蔵村、豊田村領

地があり、法道寺川沿いに富蔵村奥山、変尾河原、奥山河原、山地に豊田村奥山、山西側の小字名が見られます。第二豊田川沿いでは、畑村の合ノ谷、鉢ヶ峯村の間ノ谷などの小字名が見られます。こうして字名を見ていると、当時の土地の状況が目に見えてくると同時に、昔の人が自分たちの土地のことをうまく表現していることに感心させられます。今、「自然ふれあいの森」と呼んでいるこの施設も、「堺らしさ」、「この土地らしさ」そして「私たちの思い」が伝わる個性豊かな名前が必要ではないでしょうか。この2つの橋が森と人をつなぎ、里山再生の“掛け橋”となることを願ってやみません。



合同消防訓練



今年度最後の管理運営準備委員会が開かれた3月22日の午前中、小雨の降る中、現地を舞台にした消防訓練が消防隊の指導のもと、総勢99名で行われました。最初に参加者全員がアラカシ広場に集合して訓練がスタート。広場での火の不始末が原因で出火したとの想定ではじまり、シャベルなどを使って火元の「たたき消し」を順番に体験、その後駐車場予定地へ全員揃って駆け足で避難しました。駐車場予定地に待機している間は、消防隊による消火活動やヘリコプターから送信される火災状況の映像などを見学しました。最後に、消火用の水源を確保するため、川を堰き止めるための土嚢づくりを体験し消防訓練は終了。今後の活動に大変参考となる有意義な訓練となりました。



消防署長から 山林火災が発生し119番通報し、どんなに急いでも現場到着までに多少の時間がかかる。初期消火で延焼がかなり抑えられるので、できるだけ初期消火に努めてもらいたい。今日は訓練用の水を用意したが、この現場は水の確保が難しく消火が大変困難である。ふれあいの森の整備が進むにつれて、どんどん人が訪れるようになり、火災発生の可能性も高くなっていく。日頃から、火を出さないよう心がけ、里山の保全活動をして下さい。

訓練内容

- 1 (仮称) 自然ふれあいの森アラカシ広場に於て里山管理作業中、火気の不始末により火災が発生したという想定。(白の発煙筒点火)
- 2 全員で「たたきけし」、「踏みつけ」により消火活動を行う。しかし初期消火に失敗し延焼中。(赤の発煙筒点火)
- 3 堺市職員により全員を第2橋付近への避難を指示。あわせて119番通報を行う。
- 4 第2橋を渡ってすぐの広場(現場指揮所付近)に全員集会し、点呼を行う。
- 5 市職員から、市民ボランティア1名が負傷し逃げ遅れたという想定で119番へ第2報を行う。
- 6 通報を受けて到着した消防隊に堺市職員から状況報告を行う。消防隊から全員待機の指示を受ける。(消防署は、放水訓練とボランティア負傷者(人形)の救助活動訓練。別途ヘリコプターによる火災状況確認(画像伝送))
- 7 火災の通報を受けて到着(想定)した堺市職員責任者に、消防署長から法道寺川のせき止めの消火協力要請がある。(全員せき止め箇所へ移動し、現場の土でどのう詰詰作業を分担しながら開始する)
- 8 市職員が積み上げ作業を行って水をせき止める。そしてポンプにより近くに放水訓練をする。
- 9 放水後、全員現場指揮所付近に戻る。(指揮台に向かって左から準備委員会参加者、堺市職員、消防署員の順に整列する)
- 10 訓練終了にあたり消防署長からの講評をうける。



ちょっとお勉強のコーナー その5

春のおとずれを知らせてくれる花たち

春が近づくと様々な草花たちが花を咲かせ、春のおとずれを知らせてくれます。今回は南部丘陵地において春を感じさせてくれる草花を紹介します。



ショウジョウバカマ

長さ約1cmの花を総状につける。花色は淡い紅色から濃い紫色までさまざま、白色の花をつけるものもある。

アリアケスミレ

花の直径は1~2cm程度で、花色は変化にとんでる。一般的には、白色の花びらの中心に薄い紫の先が入っている。



タチツボスミレ

花は一般的に淡紫色の5弁花である。花色は普通やや空色を帯びた淡紫色だが変異が多い。



チゴユリ

はずかしそうにうつむきかげんで白い花を咲かせます。花がきれいなので、観賞用に栽培する人もいますが、自然の中では数が減ってしまい、貴重な植物となっています。



花と緑のまちづくり活動・市民交流会

去る3月20日堺市民会館にて堺市都市緑化推進協議会主催の「花と緑のまちづくり活動・市民交流会」が開催され、当準備委員会が初デビューしました。交流会は、各グループの活動報告と意見交換が行われ、当準備委員会の活動を世間に広く知ってもらおう絶好の機会となりました。



☆ラウンドディスカッション

第2部のラウンドディスカッション(意見交換)では、「交流の輪を広げる」というテーマで話し合いがありました。主な意見は、「年に1回この場に集まっただけでは交流できない。交流機会を作り持続できることが大事ではないか。」「この交流会自体も市民グループによる企画運営から取り組みたい。」「何かの課題にぶつかった時、悩んでいる時の問題解決策として、交流は非常に大事ではないだろうか。」などの意見がありました。



今回の市民交流会に参加してくれた委員のみなさん



森下 義男さん
市民交流会での私達の「自然ふれあいの森」も少ない時間でしたが、事務局の素晴らしいパネルとスライドで紹介でき良かったです。



塗田 麻知子さん
3月20日は折しも私の誕生日(会場いっぱい)に花が飾られ甘い香り。印象的だったのは、緑に花に自然に関心を持つ仲間が楽しくボランティア活動をしているなど感じたことです。



坂東 龍二さん
開会前、誰でも発言したい事を記入、掲示し、最後のラウンドディスカッションで全員に披露その内容を発表。交流時間では鉢ヶ峯地区の新メンバー加入のめあて。



原田 克史さん
地球大変革時代。花ト緑ト共ニ救レソ。緑ハ水ヲ育ム。木ト緑トハ生命ノ海ナリ。人ハ緑ニ依リ、花ハ樹木ニ依リクオン愛ホシケレ。

管理運営準備委員会からの報告内容

参加グループは、話題提供者「花ネット神戸」のほか、「みなみ花咲まちづくり推進協議会」、「鉢ヶ峯農産組合」、「金岡まちづくり推進協議会」と当準備委員会の5グループでした。各グループの活動風景を紹介するパネルや展示物が会場の隅々に展示され、また、会場に飾られた水仙と菜の花の香りが会場にあふれ、和らいた雰囲気の中で交流会は行われました。(仮称)自然ふれあいの森の報告は、森下さんによる取組経過や計画内容のほか、坂東さん、原田さん、塗田さんらによる実践活動の報告をしました。特に、市民参加主体で自然と人の大切さを学び市民がふれあえる森づくりをめざして取り組んでいること、そして活動への参加を呼びかけました。

「もっと森に入ろう！」

福田 暲嗣さん

正直な話、家に38年間も住んでいながら、鉢ヶ峯へ足を踏み入れたことは最近までありませんでした。第一歩は平成13年8月に公算された「(仮称)自然ふれあいの森」管理運営準備委員会の市民委員になってからです。以後、平成14年3月からの管理運営準備委員会のイベントなどを加えても、現地歩きはまだ10回程度です。

それでも、計画地内には、崖壁・斜面・湿地・溜池・小川・耕作放棄地などが様々な立地があることが分かりました。シシバカガシ、コナラ、クロノリ、ヤマモモ、ヤマザクラ、ムクノキなどの大木、ササユリ、ショウジョウバカマ、ユクラン、ノハナショクブ、シユンラン、ツルアリのシなどの可憐な花々、アケビ、クリ、ナツハゼなどの実家、ヤマノイモの石かごやタカノツメの薪草、それにクレソンまで…。生きものでは、オオタカなどの猛禽類やゲンシボタル、チョウトンボ、モンゼンマ、オニヤンマ、タマムシなどの昆虫類などなど、カサネズミの巣に出会ったこともあります。特に法道寺川の河川は、植物が豊富で、シダ植物だけでも20種類も見つかることでまたお気に入りの場所です。

このような多様な自然が残されていること、さらに、準備委員会での多様な活動が、今まで鉢ヶ峯に対して受動的だった自分の中に、もっと知りたい・踏み込みたいという積極的な気持ちが生まれてきました。これからは月に何度も計画地に入り、季節の変化を感じて記録していこうと決めました。

でも、「自然ふれあいの森」整備も一種の開発です。辞書で「開発」を調べると「開き起こすこと、切り開いて利用すること」となっています。開発が問題となるのは、自然のサイクルから大きくかけはなれているからだと思えます。自然と人間の共生を求めている今の事業では、管理作業は人力(鎌、鋸、斧、鋤など)によるものだけでいいのではないかと。そして自然のリズムを知って、それを大切にすること。そうすれば踏襲的にならず、場内での処理・利用も可能です。

私が描いている「ふれあいの森」は、いろんな立地に多くの人がそれぞれイメージした森がモザイク状に広がる多様な里山です。そんな多様な森・里山を感じ、そしてつくりあげるために、もっと森へ入りませんか？

「土壌細菌と友達になろう」

森 利造さん

生態系の中で表舞台に出てこない、脇役的存在の地中の細菌(セルロース分解菌)のことを考えたいと思います。

樹木をはじめ、植物を構成しているのは炭素を含む有機化合物セルロースです。

植物が光合成で糖分と共に空中の二酸化炭素を材料に作られ、そして落ち葉などになり、再び地中に戻って再び植物の光合成の材料になる。そこで竹城公園の自然植生で厚みを調べました。意外と浅く15cm程度です。自然の循環ではそんなに深くならないようです。いつも竹城公園で観察しています。少なくとも30年間そのままの状態で。実験的に一部を掘り返し落葉をすき混ぜると40cmくらいにはすぐに厚みが薄くなります。そうすれば地力も増します。炭素を固着するので温暖化防止にも役立ちます。

また、枯草と表面が乾燥しにくくなり火災の防止になります。(最近のニュースで報じられた瀬戸内の島の里山の火災の原因も落ち葉の乾燥が原因でした。)自然の循環を助けるのが人間の役目、それが里山管理です。また、セルロース分解菌は土壌栄養分に変える働きをします。ちなみに竹城公園の植生とふれあいの森の植生は元々ひとつの里山です。竹城公園の実験をそのまま、ふれあいの森に適用しても全く問題はないはずです。

インフラとしての建物、人を動員するためのイベントも重要ですが、それと共にセルロース分解菌が働きやすいような里山であってほしいのです。

「じっと見る」

北井 崇文さん

その昔、人々は自然と向き合って生きていた。自然をじっと見ることで、そこから知恵を学び、それを利用してきた。生きるという原点は自然の中にあるのである。

「いのちとは何かそれは夜を照らす星のきらめき凍てつく冬の空気に野牛の吐く吐息草の上に落ちつかない姿を映しながら日没とともに消えていくちっぽけな影」(インディアンの言葉)

そう、そんな何でもないことを、日々の生活の中で感じ取っていられることが、人間にとって一番大切な確幸の源泉なのである。里山はそういう意味で、人と自然が一つになれる所なのかもしれない。

我々は、日々の生活に追われ自然に対して目を向けることが少なくなっている。ちょっと視点を変えれば、こんなにも素晴らしい世界が広がっているというのに。「観る」「聴く」「嗅ぐ」「食べる」「触れる」五感を使って、自然をじっと見ることで、そこから発せられる自然からのメッセージを少しでも感じ取りたいものである。そこには生きるための知恵がいっぱい詰まっているのだから。そして、自然と一つになれば…

「全ての生命は一つの織物であるそれを織ったのは人間ではない人間は一本の織り糸に過ぎないのだ生命の織物に対してすることは自分自身に対してすることなのだ」(インディアンの言葉)

我々は、日々の生活の中で常にこのことを肝に銘じておかなければ、自然は我々を受け入れてくれないだろう。

「チルチルとミチル」

原田 克史さん

昔、川は滔々と流れておった。その川で泳ぎ、その水を飲んだ。川原では野鳥の営巣がみられ、手入れされた竹藪は清らかな風をなびかせておった。川は雄々しき風物であった。滔々たる流れは高音を発し、水流に勢いがあつた。勢いはそのまま国土の活力であつた。

国土の健康なくして国民の健康はあり得ない。して水は国土の生命である。我が国の創設もその淵源を尋ねれば、実にそれは水稲に依りてもたらされたものであり、いわゆる豊饒原の瑞穂の国も充溢した水流なくしては成立し得なかつたのである。(女王卑弥呼の邪馬台国も水田稲作国家であつた)また人の身体なるものもその80%は水である。してみれば人たると作物たるとを問はず、はた鳥獣たると草木たるとを問はず、あまねく生命の幸せのためには先ずもって水を養うことに眼目を置かねばならぬ。水の養いのためにはその本源たる森林や山地の活性化へ向けての真摯な取組みが要請されよう。

治山治水は総論の要諦である。わが「ふれあいの森」も当然その一翼を担ってよい。森に一条の谷がある。この谷をして能く生彩あらしむるを得ば、その効果はやがて川に波及し、川は更に伝播して沿海を潤すにいたる。かくの如くして我々が事業は巡り巡りして遠くは大洋にまでも達し、ひいては地球の健康にも寄与しうるのである。

兄妹の希望も私たちの森から巣立ってゆくのです。

問合せ先

「(仮称)自然ふれあいの森」
管理運営準備委員会 事務局

堺市 公園整備課 | 株式会社 緑景
TEL:072-228-8174 | TEL:06-6763-7167
FAX:072-228-1336 | FAX:06-6765-5599

ホームページアドレス

<http://sakaisatoyama.cool.ne.jp/>

アクセス方法



泉北高速鉄道
泉ヶ丘駅下車

南側2番のりば
鉢ヶ峯行き
公園墓地北口下車
(約15分)

